

平成25年度東京都医師会役員選挙に向けて

の な か ひろし
野 中 博

再び東京都医師会会長に！



<http://dr-nonaka.com/>

— 2年間の実績をふまえ

「チーム野中」が結集 —

Team Nonaka

野中 博が掲げる都医のあるべき姿

「生活者の視点に沿った、住み慣れた地域での安心安全な医療提供体制と地域包括ケアの構築」は、地域医療を構成する診療所・病院がともに参加する地区医師会が中心となって、地域の多職種団体の皆さんと協働して、はじめて実現できます。

東京全域の病院（大学・都立・公社・民間）が連携し、その多様な機能を活用して生活者を支えます。これらの目標を速やかに医療政策として実行に移すため「チーム野中」がスタートします。

生活者を支える「医療提供体制」と「地域包括ケア」 — 構想 —



「チーム野中」の実現ボード

会長候補

野中 博

副会長候補

尾崎治夫
近藤太郎
猪口正孝

監事候補

赤上 晃
竹下俊文

理事候補と担当部署

総務 橋本雄幸
経理 山口いづみ
疾病対策 角田 徹
疾病対策 佐々木伸彦
学校保健 正木忠明
地域保健 渡辺 象
地域保健 森久保雅道

社会保険 蓮沼 剛
医療福祉 平川博之
医療福祉 内藤誠二
病院・防災 伊藤雅史
医療安全対策 小林弘幸
医療情報 目々澤 肇
出版・広報 野津原 崇
学術・教育 大学医師会から推薦

東京都政、国政を動かす

地域医療を支える地区医師会は地域の多職種団体、行政とともに互いにその機能を連携して向上し、垣根を越えて協働して政策提言と実行力で目標を実現します。

「チーム野中」

Members

平成25年度

東京都医師会役員 立候補者のご紹介

目標とする政策を着実に実現するため、執行部には明確なビジョンと方向性を堅持して、
更なる改革を押し進めてゆく覚悟が求められています。

副会長候補 3名

執行部の中心となる副会長候補には、従来から共に議論し、活動してきております
尾崎治夫君、近藤太郎君、それに今回は、防災で活躍され病院を活動の場とされて
いる猪口正孝君を推薦いたしました。



尾崎治夫(おざき はるお) 61歳

東久留米市医師会

公益法人化、新会館建設に尽力。
東京都医師会禁煙宣言で、たばこ対策を進める。
地域医療推進・病院・医療福祉の3委員会の統合をはじめ、繋がりのある新たな地域医療体制の構築を目指す。



近藤太郎(こんどう たろう) 48歳

渋谷区医師会

豊富な知識と活動力を武器に、予防接種の整備、子どもたちに向けての健康教育や学校保健、かかりつけ医の視点からも支える産業保健、感染症対策・情報交換の在り方など多くの課題へ取り組む。



猪口正孝(いのくち まさたか) 55歳

都病協・葛飾区医師会

病院・防災・救急に精通。
総力戦で臨むという東京都防災計画の立案には、行政も含め高い評価が。
副会長として、診療所と病院の相互理解と協力を進め、医療機能の向上を目指す。

監事候補 2名

監事候補の赤上晃君、竹下俊文君には地区医師会長としての豊富な経験を
活かし、法人医師会運営の監事をお願いいたしました。



赤上 晃(あかがみ あきら) 66歳

八王子市医師会

地区医師会の役員歴18年の経験を活かし、1期目で土台作りをおえた野中執行部の2期目の活動に協力、公正な立場から意見を述べ監事の役割を果たしていく。



竹下俊文(たけした としふみ) 64歳

中野区医師会

18年間の地区医師会役員、2年間の東京都医師会総務担当理事の実績、経験を活かし、監事として東京都医師会の運営を監督する立場で政策実現に、建設的な意見を述べていきたい。

理事候補 14名

理事候補は実務能力に精通した人材の登用を重視し、地区医師会や東京都病院協会、大学医師会からの推薦も含め、結集していただきました。

学術・教育担当は大学医師会 推薦



橋本雄幸 (はしもと かつゆき) 55歳
総務 担当 港区医師会

医療情報で培った力を総務で生かす。その行動力は、周囲も納得。災害医療の拠点としての新会館のIT化、医師会活動・地域医療を啓発する出張講義を多くの医学部・医科大学で普及に尽力。



蓮沼 剛 (はすぬま たけし) 50歳
社会保険 担当 日本橋医師会

2年間の社会保険行政機関との交渉、指導・監査への立ち合い、その経験を活かし医療機関がスムーズな保険診療を行えるよう尽力。専門家集団としての医師会の在り方も追求。



山口いづみ (やまぐち いづみ) 66歳
経理 担当 葛飾区医師会

数々の入札見直しによる経費節減を実現。専門の産業保健でも、ワークショップ形式の講習など実力を発揮。次世代医師育成にも力を注いでいく。



平川博之 (ひらかわ ひろゆき) 60歳
医療福祉 担当 八王子市医師会

在宅療養、介護保険、精神科医療のエキスパートとして在宅医等相互支援体制構築事業等の新規事業、精神保健医療福祉委員会の創設など様々な事業に積極的に取り組んできた。地域包括ケアの実現が夢。



角田 徹 (かくた とおる) 57歳
疾病対策 担当 三鷹市医師会

卓越した実務能力で、感染症・疾病対策・特定健診・難病等を担当。常に、迅速性と現場感覚での対応、知らせるべき情報のわかりやすさをモットーに今後も対処していく。



内藤誠二 (ないとう せいじ) 56歳
医療福祉 担当 都病協・渋谷区医師会

地域密着型病院の経験を活かし、医療福祉を担当。かかりつけ医や訪問診療医の後方支援で病院の役割を重視。更に介護福祉施設との連携も視野に、地域生活者支援の体制作りを目指す。



佐々木伸彦 (ささき のぶひこ) 56歳
疾病対策 担当 調布市医師会

小児科専門医として、地区医師会や都医委員会で培ってきた小児保健の知識、活動を活かし、任意接種ワクチンの定期接種化・保育園医の待遇改善・質の向上・発達障害の就学前の診断とその対応に力を注ぐ。



伊藤雅史 (いとう まさし) 57歳
病院・防災 担当 都病協・足立区医師会

地区医師会の病院部・労災救急担当理事として、また都病協の活動で培った力を活かし、更なる東京都救急・防災体制の充実と、地域における病病・病診・診診連携ネットワーク構築を推進。



正木忠明 (まさき ただあき) 65歳
学校保健 担当 江東区医師会

小児科医という立場、地区医師会での学校医・子供虐待担当理事として培ってきた力を活かし、学校医・園医活動・児童虐待防止・病児保育などの問題に積極的に関わって行きたい。



小林弘幸 (こばやし ひろゆき) 52歳
医療安全対策 担当 順天堂大学医師会

順天堂大学で培ってきた医療安全対策のプロの力を都医で発揮してもらおう。勤務医が抱える問題点を会員皆で共有し、安心かつ安全な診療が、医療の現場で実現できるよう全力を投入。



渡辺 象 (わたなべ しょう) 62歳
地域保健 担当 大森医師会

学校保健でみせた丁寧かつ緻密な対応と厚い壁を乗り越え風穴を通す実行力で、12年間におよぶ日本プライマリ・ケア学会理事の実績を活かし地域医療の分野に力を注いでいく。



目々澤 肇 (めめざわ はじめ) 59歳
医療情報 担当 江戸川区医師会

地区医師会の医療情報委員会、都医の医療開発委員会で培った力で、新会館のITシステム化の構築を進める。医学生との交流を通じ、次世代医療人の育成にも力を注ぐ。



森久保雅道 (もりくぼ まさみち) 57歳
地域保健 担当 日野市医師会

地区医師会長の経験を活かし、地域包括ケアシステムの具現化に力を注入。介護、公衆衛生、学術関係との連携と協働を重視し、行政との連携強化も実現したい。



野津原 崇 (のづはら たかし) 64歳
出版・広報 担当 田園調布医師会

日医の広報委員長も務める。公益社団法人として認可された東京都医師会の都民に拓かれた出版・広報活動とは何か…。限られた予算の中で新たな広報に取り組む。

この2年間、現執行部は 地域の声をしっかり聞いてまいりました。

「チーム野中」はこれらの貴重なご意見を参考に、具体的な医療政策として実現してまいります。

地域で生活者 を支える 体制づくり

地区医師会の医療連携を強力にサポートします。

高齢化で罹病者が増えるなか、従来の病診連携だけでなく限られた医療資源を活かすためには、機能の異なる病院間の連携（都立病院、公社病院と民間病院の連携…）、地域での診療所間の連携も重要になっています。東京都医師会では、積極的に地域医療連携のサポートをしていきます。

地域の在宅医療を支援します。

各医師会レベルで診療所の医師と、地域の様々な病院間の密接な連携をサポートする搬送システムのモデル事業を実施します。

このシステムを利用して患者、患者家族の納得のもと、急性疾患を生じた高齢者が地域連携のなかで治療を受け、その後も地域で安心して生活できる仕組みづくりを目指します。

これにより地域の医師が安心して在宅医療に取り組める基盤も整っていきます。

医師が安心して診療に 専念できる 体制づくり

医療安全対策は現実的にできる都医独自の対策とします。

多くの勤務医の先生から、安心安全な日常の診療活動ができるよう、不条理な医事紛争に巻き込まれることがないよう、都医で仕組みをつくってほしいとの意見をいただきました。また、診療関連死についても、様々な団体の答申で都道府県医師会に中心的な役割が求められております。これらに精通した小林弘幸氏を迎え、法曹界も交えた新たな都医独自の医療安全対策を構築してまいります。

地域における多職種団体との協働を推進します。

医師が診療に専念できる環境づくりに、地域の多職種団体との協働によるサポート体制を整えていきます。

地域の安定した医療を確保することを目的とした様々な開業の支援をします。

大学病院や市中病院に勤務する医師の開業を、東京都医師会が開業候補地の医師会との間を取り持つなど、スムーズな開業ができるように支援します。

行政との連携で都民生活 を支える 体制づくり

東京都との防災計画立案が地域の実情に合った防災対策として実施できるよう支援してまいります。

東京都の防災計画では医療人すべてが臨む総力戦を提案し、具体化できました。今後は地域の防災計画策定にあたって、地区医師会が働きやすく、実情に合ったものとなるように行政に働きかけ支援いたします。また、有事にあってJMATが素早く活動できるようにシステムの構築をいたします。

子供たちの健全な発育のために学校保健への新たな支援策を提言します。

この時代の生徒たちが置かれている現状を考えると子供たちへの健康教育（食育・感染症・アルコール・薬物乱用・たばこ）など、学校医が教育現場に直接出向いて指導することが求められています。都医は、スライドの作成、学校医による教育委員会への提言などを積極的に進めます。

予防啓発を推進し、また感染症対策システムの確立を目指します。

新型インフルエンザ発生時の対応では都や日医との連絡をさらに密にして、会員の皆さんに不安・ストレスを感じさせないシステムづくりを目指します。引き続き、先進国並みのワクチンの定期接種化、国による公費負担、全都での総合乗り入れの実現、今までとは異なったワクチン行政を提言してまいります。

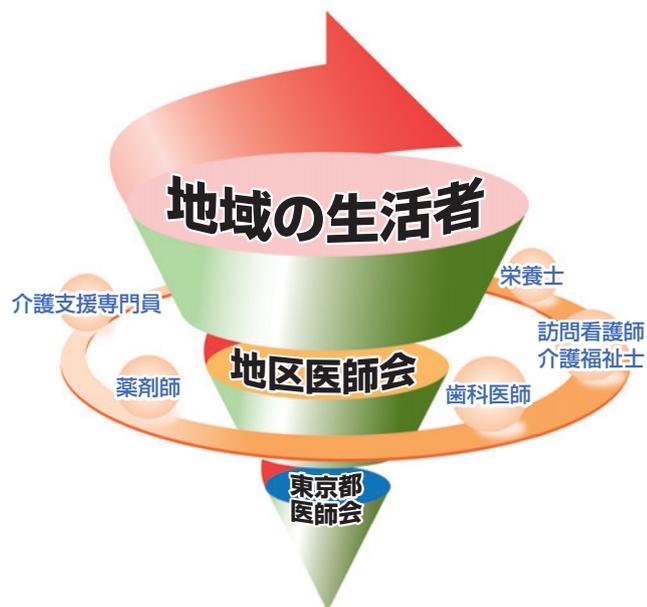
エイズ対策は早期発見ではなく、罹らないための予防啓発に力を入れていきます。

都全域での感染症リアルタイムサーベイランスシステムの確立も目指します。

がん検診の見直しなどがん対策の更なる充実に努めます。

がん対策の二次予防として重要な検診受診率、精度管理の向上について行政と協働して進めます。また、胃がん検診についてはハイリスク検診の有用性に関してモデル事業等を通じて検討してまいります。子宮頸がん一次予防としてのワクチン接種に関しても、都民への啓発と摂取率向上を目指します。その他のがん検診に関しても同様な視点から各種の検討・改善を進めます。

地域の生活者と地区医師会が主役



東京都医師会は、地域の生活者を地区医師会と多職種団体との連携・協働で、真の「医療提供体制と地域包括ケア」の具現化を積極的にサポートします。



野中 博 (のなか ひろし) プロフィール

1947年9月15日生

1972年 東京医科大学卒業。同年同大学内科学教室入局

1985年 野中医院を開業

1987年 (社) 浅草医師会理事 1989年 (社) 浅草医師会会長 (2005年3月31日まで)

1990年 医療法人社団博腎会 野中医院開設

1997年 (社) 東京都医師会理事

2003年 (社) 東京都医師会副会長

2004年 (社) 日本医師会常任理事 (2006年3月31日まで)

日本医師会常任理事として主に介護保険を担当、社会保障審議会介護保険委員会と介護給付費分科会委員にて介護保険制度の改定に参加。

さらに社会保障審議会障害者部会にも参加し、障害者自立支援法の議論にも参加。

2006年7月 (社) 日本医師会介護保険委員会委員長

2006年9月 社会保障審議会 (後期高齢者医療の在り方に関する特別部会) 臨時委員

2008年1月 厚生労働省「安心と希望の医療確保ビジョン」アドバイザリーボード

2008年2月 社会保障国民会議 サービス保障 (医療・介護・福祉) 分科会委員

2010年5月 厚生労働省社会・援護局 安心生活創造事業推進検討会委員

2011年4月 東京都医師会会長

2012年4月 日本医師会理事

東京都医師会役員選挙 対策事務所

代表 **野中 博** (のなか ひろし)

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-20 第2龍名館ビルディング5F

TEL:03-6273-7824 FAX:03-6273-7825

E-mail:nonaka2013@aj.wakwak.com